

各位

MediciNova, Inc.  
代表取締役社長兼 CEO  
岩城 裕一  
コード番号： 4875 東証 Jasdac  
問合わせ先： 東京事務所代表 副社長  
岡島 正恒  
電話番号： 03-3519-5010  
E-mail： [info@medicinova.com](mailto:info@medicinova.com)

### 新執行役就任に関するお知らせ

2013年10月15日 米国 ラ・ホイヤ発 ・ メディシノバ (MediciNova, Inc.) (米国カリフォルニア州 ラ・ホイヤ、代表取締役社長兼 CEO：岩城裕一) は、下記のとおり執行役を任命しましたのでお知らせいたします。

#### 記

1. 氏名及び役職名  
氏名 ジェフリー・オブライアン  
役職 執行役 管理部門担当副社長
2. 就任日  
2013年10月15日

なお、オブライアン氏の略歴は以下のとおりです。

#### 【略歴】

2009年6月にメディシノバ入社。当社入社以前は、UBS、DLJ/クレディ・スイス・ファースト・ボストン (Credit Suisse First Boston)、野村、パンク・ズィーガル (Punk Ziegel) などウォールストリートの複数のインベストメント・バンクにおいて、10年以上にわたり、製薬企業及びバイオテクノロジー企業をカバーする株式アナリストあるいはインベストメント・バンカーとして活躍。パンク・ズィーガルでは2004年から2008年にかけてバイス・プレジデントを務めました。セルサイド・バイサイドの両サイドの上席株式アナリストとしてのキャリアにおいて、オブライアン氏は開発プログラム及び商品化される製品について臨床、科学、財務、戦略及び競争力に着目して分析を行うことに注力してきました。こうした分析方法を用い、発展段階または大手の製薬企業及びバイオテクノロジー企業の将来性について予想を行ってきました。UBSで同氏が参加していた製薬企業専門チームは、機関投資家マガジンが選ぶ全米リサーチチーム調査において#2ランクに格付けされています。また、DLJ/クレディ・スイス・ファースト・ボストンでは、

医療分野専門のインベスト・バンカーとして、買収及び株式売出手掛けました。同氏はすでに大学院入学前に、The Liposome Company 社において、バイオテクノロジー商品の開発に成功しています。デラウェア大学において優秀な成績で化学専攻の理学士を取得、バンダービルト大学 ロースクールで法学士を、さらにバンダービルト大学オーウェン経営学大学院において MBA を同時に取得しました。

以上

#### メディシノバについて

メディシノバ (Medicinova, Inc.) は、日本内外の国際的製薬企業との提携により有望な低分子化合物を導入し、様々な疾患領域の新規医薬品の開発を主として米国で行う公開製薬企業です。弊社のパイプラインには、喘息急性発作、COPD (慢性閉塞性肺疾患)、多発性硬化症を始めとする神経疾患、神経因性疼痛、薬物依存、喘息、間質性膀胱炎、固形癌、全般性不安障害、切迫早産、尿失禁など、多様な疾患の治療を目的とする 6 つの臨床段階の化合物と、血栓症治療を目的とする 2 つの前臨床段階の化合物が揃っております。メディシノバは、当面その戦略として、喘息急性発作及び COPD の治療薬 MN-221 と多発性硬化症及びその他の中枢神経系疾患治療薬 MN-166 との 2 つの優先的開発化合物に資源を集中して開発を進めていく予定です。MN-221 については、米国内で独自に開発を行い、一方 MN-166 については、開発に際して、戦略的な提携関係を構築することを考えております。また、他の製品候補につきましても、現金化を試みて参ります。弊社詳細につきましては <http://www.medicinova.jp> をご覧下さい。メディシノバの所在地はアメリカ合衆国カリフォルニア州ラ・ホイヤ、スウィート 650、エグゼクティブ・スクエア 4275 (電話 1-858-373-1500) です。

このプレスリリースには、1995 年米国民事証券訴訟改革法 (The Private Securities Litigation Reform Act of 1995) に規定される意味での「将来の見通しに関する記述」が含まれている可能性があります。これらの記述には、製品候補の治療法としての新規性および効能を実証する臨床試験に関する記述、既存または将来の臨床試験の計画や目的および製品開発に関する計画または目的に関する記述などが含まれます。このような記述には、臨床試験の結果、現段階の臨床試験の結果が必ずしもその後の製品開発の行方を確定するものではないこと、将来の臨床試験のタイミング、費用、計画など、臨床試験、製品開発および商品化に付随するリスクや不確定要素、FDA に対して書類を提出するタイミング、当社の戦略の失敗、第三者との提携構築、アヴィジェンとの合併により、イブジラストに関する開発プログラムを統合することにより期待される戦略的、財務的メリットを実現する可能性、イブジラストに関する開発プログラムを進めるための戦略的提携交渉、または、資金調達の可能性、知的財産権や契約上の権利を始めとして、当社が米国証券取引委員会に提出した届出書に記載されているものも含めたその他のリスクや不確定要素など、その多くは当社のコントロールが及ばないいくつかの前提、リスク、不確定要素の影響を受ける

ものであります。したがって、「将来の見通しに関する記述」はその時点における当社の状況を述べているにとどまり、実際の結果または成り行きは、必ずしも予想通りにはならない可能性があることにご留意下さい。また当社には、この記述に関して、情報の修正または更新を行う義務はありません。